

わおん 通信

2018
夏号
vol.29

特集

家庭で、学校で、職場で、チャレンジ

わかやまこどもエコチャレンジ&
わかやまCOOL CHOICEコンテスト スタート



CONTENTS

P2 - P3

県内地域の取組

親子で楽しむ体験教室
真田まつりで生物多様性の保全をPR
エネルギーの可能性「さつまいも」から
生きものたちの「遊園地」に歓喜

推進員 克ちゃんの
ああしたら こうなった 4 (全6回)

P4 - P5

家庭で、学校で、職場でチャレンジ

わかやまこどもエコチャレンジ&わかやま COOL CHOICE コンテスト スタート

P6 県情報

第17回わかやま環境賞
和歌山県太陽光発電事業の実施に関する条例

P7

推進員さん訪問記^{②④}
なるほど ザ・ワード

P8

INFORMATION

親子で楽しむ 体験教室

2018年3月4日
岩出市民ふれあいまつり

[ストップ温暖化岩出の会]



えこわかビンゴクイズ体験



ペットボトルの竜巻づくり体験



ユーターンカーづくり体験



熱エネルギー差発電体験

「親子で体験する環境教育」をテーマに今年も出展。5種類の体験教室を用意しました。昨年と同じものは熱エネ

ルギー差発電体験、ユーターンカーづくり体験、ペットボトルの雲づくり体験、えこわかビンゴクイズ体験の4種類。いずれも、子供を中心とした体験で、親も一緒に楽しんでいただいています。

新しいものとして「ペットボトルの竜巻づくり体験」を導入。二つのペットボトルの一方に40℃の湯とカラーの発砲入浴剤を入れ、つなぎ合わせたと上下逆さにして回転させると泡がクルクル回転して上昇。ボトルの中で起こる竜巻現象に喜んでいました。また、えこわかビンゴクイズ体験では、温暖化冊子をヒントに解答。縦・横・斜めのいずれか3つがそろえばビン

真田まつりで 生物多様性の保全をPR

2018年5月4日
道の駅「柿の郷どやま」芝生広場
紀州九度山 真田まつり

[伊都・橋本地球温暖化対策協議会]

ゴ。今年も100名の親子が参加し、4名の推進員が昼食もそこそこにフルで対応した1日でした。

(推進員 城 保宏)

「ゴールデンウィークの恒例イベント「真田まつり」が開催され、晴天のもと伊都・橋本地球温暖化対策協議会も出展し、生物多様性を含む環境保全の必要性をPRしました。近ごろ目にしなくなった生きものの様子を見たり触れたりする機会として、里山に住む準絶滅危惧種であるアカハライモリやヤゴ、メダカ等を



展示。また里山にある竹や木の実、松ぼっくり等を使ったクラフト教室を開催しました。日頃体験できない内容とあって子供たちを中心に大盛況の1日となりました。また、親御さんには地球温暖化対策のための国民運動である「COOL CHOICE（クールチョイス）」のPRも併せて実施しました。今後とも市民の方が多く集まるイベントに出展し、地球温暖化防止に向けた国民運動である「COOL CHOICE」を盛り上げていきたいと考えています。

(推進員 黒井成男)

エネルギーの可能性 「さつまいも」から

2018年5月22日
紀の川市

[紀の川スマートファーム協議会]



今年も、さつまいもの植え付け体験会が行われました。紀の川スマートファーム協議会の会員、近畿大学生物工学部の生徒ら24名が参加。同大学の鈴木高広教授監修のもと、用意された苗が次々に植



え付けられました。実験の取組として引き続き研究が進められる中、通常行われる土壌への植え付け方法に対し「半水耕栽培」という方法を採用することで、いもが短期間で収穫可能になるとのこと。早期収穫のメリットは、エネルギー利活用に向けた必要量確保の重要なポイントとされています。今後、いもの出来栄を期待しつつ秋の収穫祭までの間、関係者による栽培実験が続けられます。収穫体験会にぜひご参加ください。

(推進員 中川皓次)

生きものたちの「遊園地」に歓喜

2018年6月3日
田辺市天神崎
第74回天神崎自然観察教室

[公益財団法人 天神崎の自然を大切にする会]

ラムサール条約の先駆けとして保全活動が続けられている天神崎。干潮時にひよっこりあらわれる21ヘクタールの岩礁に、県内外から約80名の親子が参加。岩礁の中央にある「丸山」に集合、天神崎の自然を大切にする会の丸村真弘代表の挨拶につづき、観察会の説明が行われました。合図とともにバケツや網を持った親子が一斉に採取開始。元理科教師や研究者など、専門家のサポートを受けて、子ども大人も岩場のすきまや、石の裏側など、生きものの潜んでいそうなところを探していきます。ふたたび丸山に集合し採取した生きものが観察用



のトレーに集められ、種類ごとに分けられます。そして、同会評議員の広瀬祐司さんによる説明がはじまると、参加者らは熱心に耳を傾けていました。広瀬さんは「ウミウシの仲間がたくさん見つかった。近年の急激な変化の一つ」とし、気候変動による影響の可能性を実感できる内容でした。説明が終わると、子供たちはそれぞれの生きものを手に乗せたり、トレーを覗き込んだりしながら歓喜のひとときを過ごしました。

推進員
克ちゃんの

ああしたら こうなった

6回シリーズ

エコハウスにしたらカミさんがやってきた！

<いざ、ペレットストーブ導入>

(前号の続き) 台所や風呂への給湯は従来の太陽熱温水器だけでは不足することは明らかです。そこで太陽熱の補助として家庭用の木質ボイラーを検討しました。

それから知り合いのペレットストーブ輸入代理店さんに相談しました。すると「最近ヨーロッパでは太陽熱集熱器とペレットボイラー、蓄熱タンクが三点セット販売されてます」「日本ではまだ入っていませんが、パッケージで導入した方が効率も良いですよ」「輸入第一号で試験も兼ねて割引しますよ」なんて言われて、

「よしそれなら独り者だから自己責任でやるし、誰かがパイオニアにならないと前に進まない、ここは俺がやらねば誰がやる」なんて妙に力んで決断しました。実際の設置までには一苦労も二苦労もありましたが、東京時代のペレットストーブ業者の友人にも出張してきてもらって何とか動き出しました。

(次号に続く)

このコーナーでは推進員の方々の CO₂削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。

特集

家庭で、学校で、職場でチャレンジ



わかやまこどもエコチャレンジ&わかやまCOOL CHOICEコンテスト スタート

県内の小学4～6年生が夏休み期間中に家庭でのエコ活動に取り組み、結果を記録する「わかやまこどもエコチャレンジ」。県では、様々なエコなチャレンジを募集します。この取組と連動して、県センターでも今年、大人も参加できる「わかやまCOOL CHOICE コンテスト」を実施します。家庭はもちろんのこと、学校のクラスや部活動の仲間、職場や自治会、サークル仲間など、様々なチームで活動の輪が広がることを目的としたキャンペーンについて紹介します。

◆おもわず感心・エピソードいっぱいの力作ぞろい

平成27年度からスタートした「わかやまこどもエコチャレンジ」。県内全域の小学校を対象に夏休み前の6月に教材を配布します。各学校の担任の先生が実施方法を説明し、夏休みの間に家庭で取り組んだ結果をレポートにまとめて提出。集まったレポートは、県内の公共施設での展示や

webサイトに掲載されます。これまでに、のべ11,984人の応募がありました。それぞれの家庭で取り組んだアイデアは、感心させられることばかりで、レポートを読んだ人々への良い刺激となっています。

「わかやまこどもエコチャレンジ事業」について

【目的】

子供を通じた家庭でのエコ活動を通して、県民一人ひとりの環境意識の向上につなげる。

【対象】

県内全小学校の4年・5年・6年生

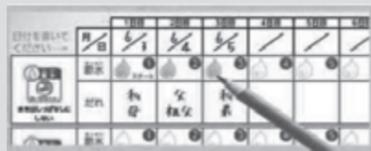
【主なスケジュール】

- 6月下旬 教材を小学校に配布
- 7月中旬 各学級担任が実施方法等説明のうえ、教材配布
- 夏休み 児童が家族と一っしょにエコ活動にチャレンジ、活動レポートを作成
- 9月末 活動レポートの応募締め切り
- 11月中旬 公共施設等でレポートを展示
- 12月末 HPにレポートを掲載

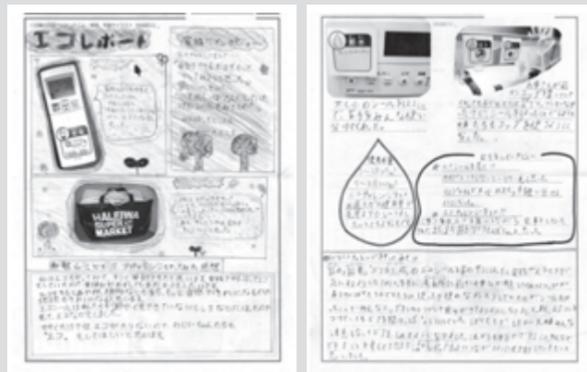
【具体的な取組内容】

①エコ活動にチャレンジ

- 夏休みの期間中に、家族と一緒に「節電」「節水」「ごみ減量」等のエコ活動に取り組む



・取組結果を活動レポートに記録



②活動レポートの募集

- 活動レポートを公共施設等で展示、県ホームページへ掲載し、広く一般に周知・啓発



・県ホームページ

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/kodomoecochallenge/gaiyo.html>

◆次は大人たちの出番

「もっと取組を広げたい」。エコチャレンジのレポートを読んだ人々からの声が高まり、家庭だけでなく、職場や学校、地域などでチャレンジできる機会があれば、との発想から「わかやまCOOL CHOICEコンテスト」がスタートします。

【目的】

家庭や職場などチームでエコ活動に取り組む宣言を行い、和歌山県のCOOL CHOICE宣言率が全国

1位となるようエコ活動推進県を目指します。

【対象】

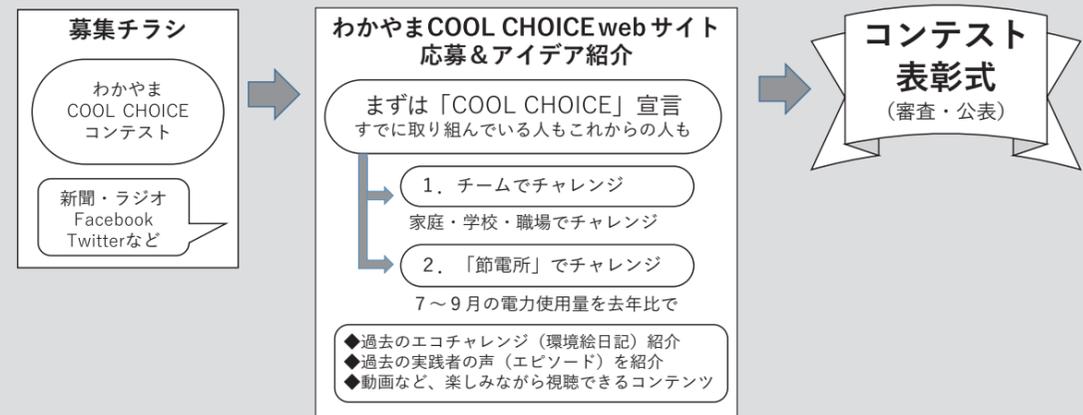
和歌山県にお住まいの方、和歌山県内に通勤、通学されている方

【主なスケジュール】

募集期間：7月1日～12月31日

審査：1月

結果発表・表彰式：2月（予定）



◆「県民チャレンジ」、その先にあるもの

2030年までの国民運動「COOL CHOICE（賢い選択）」。この取組がさらに和歌山県内で広がれば環境に配慮しようという理解をもった人々がたくさんいる地域として認識されることにつながるでしょう。やがて国内のみならず、海外からも関心の眼が向けられるのではないのでしょうか。

宣言・応募方法など詳しくは、右記webサイトにアクセス

めざせ全国No.1
(宣言率全国比)

すてきなプレゼントが当たるかも!!

あの人もやっているベタなエピソード から あなたのたったひとつのエピソード まで何でも

WAKAYAMA COOL CHOICEコンテスト開催

わかやま クールチョイス 検索

●QRコードからもアクセスできます

第17回わかやま環境賞

【平成30年6月5日(火) 11:00～ 於：和歌山県庁】

○わかやま環境賞とは・・・

環境保全に関する実践活動が他の模範となる個人や団体を称え、広く県民に紹介するための表彰です。県民の環境保全に関する意識を高揚するとともに、行動の促進を図ることを目的として、平成14年度（2002年度）に創設され、今回で17回目となりました。



受賞者（順不同・敬称略）

（1）わかやま環境大賞

受賞者	市町村	活動の名称
有田市立糸我小学校	有田市	校区から始める環境保全

（2）わかやま環境賞

受賞者	市町村	活動の名称
橋本市立三石小学校	橋本市	三石小学校のESDを地域へ（人に優しい、地球に優しい）
松本祐典	有田川町	サステイナブルな暮らし！有田川無農薬みかん農家の挑戦
柱本田園自然環境保全会	橋本市	都市と農村の連携による田園・里山の保全

※ESD…持続可能な開発のための教育
※サステイナブル…持続可能であること

（3）特別賞

受賞者	市町村	活動の名称
和歌山市西浜婦人会	和歌山市	年間を通じた西浜地区の生活環境保全
和歌山高専GOAL14	御坊市	円月島の風化防止と海洋環境保全に関する技術開発

本県の環境にふさわしい太陽光発電事業の普及を図ることを目的とした
【和歌山県太陽光発電事業の実施に関する条例】を制定しました。

（平成30年3月23日公布・一部施行、6月22日全面施行）

【条例制定の背景】

太陽光発電は、発電時に温室効果ガスを排出せず、豊富な日照時間など本県のもつ自然資源を活かせることなどから、本県ではその普及を促進しています。

一方、近年、山林や傾斜地を開発する太陽光発電の計画が増加しており、防災上の問題、環境面や景観面での悪影響について県民の不安が拡大している状況にあります。

太陽光発電については、規模や設置場所によって、環境影響評価条例や森林法等の適用を受けない場合があります。また、事前に地域住民等に説明が行われないうちに、事業が実施され、地域でトラブルが生じている事例もあります。

こうしたことから、太陽光発電事業について、県民の理解と環境との調和を確保し、本県の環境にふさわしい太陽光発電事業の普及を図るため、条例を制定することとしたものです。

和歌山県太陽光発電事業の実施に関する条例について、詳しく知りたい方は・・・

和歌山県 太陽光 条例 検索

松っちゃんの

推進員さん^{ひょっこり}訪問記²⁴



尾崎良子さん



堀 陽子さん

橋本市 尾崎 良子 さん 堀 陽子 さん

今回のひょっこり訪問記は女性2名、堀 陽子さんと尾崎良子さんの登場です。お二人は共に推進員第1期生で橋本市在住、そしてガールスカウト和歌山県連盟の第2団（橋本市）のリーダーを務めています。堀さんは徳島県生まれの徳島県育ちで、大阪で就職し、家庭を持ちましたが空気がきれいな橋本市にマイホームを求めて移住。また尾崎さんは大阪生まれの大阪育ち、同じく大阪から環境のいい橋本市にマイホームを建てました。二人が知り合ったのは31年前に子供たちがガールスカウトに入団したことから、共にガールスカウトのリーダーとなりました。

ガールスカウトは環境活動をメインにした団体で「自然とともに！」がキャッチフレーズ。推進員への応募動機も、もっと環境問題を勉強してレベルアップし、子供たちに伝えるためだったといいます。養成講座ではヒマラヤの氷河が後退した写真や温暖化の現状を学んでショックを受けたと。これはみんなに伝えなければ！と思うと同時に、もう焼け石に水かな、でも子供から地域へ、そしてより広範囲に温暖化防止を広めることが必要なことと確信したといいます。また後に映画「不都合な真実」を観てさらに気持ちが強くなったと。

ガールスカウトの活動では「来たときよりも美し

く」を実践。施設や屋外ではゴミは持ち帰る、食器等は紙やボロ布で拭いてその土地の水は汚さない、キャンプファイアの火も「立ちかまど」を利用して土に負荷をかけないよう配慮をしています。また年に一回のガールスカウトの日には地域周辺の草刈りや清掃も実践、まさに自然を大切に活動です。

推進員の活動としては、ガールスカウトの活動と土・日曜日が重なることが多いのであまり参加できていないとのこと（でも、イベントでよく見かけます）。そして生活面ではもちろんエコ生活を実践、家族が出来るだけ同じ部屋にいることやお風呂も続けて入る、節水はもちろんで風呂の水は家族がバケツリレーで水やりに使う、ゴミを減らすために食事は残さないように作る、車は乗り合わせて利用、太陽光発電や太陽熱温水器の利用等々。

尾崎さんは「環境のことを言うとケチと思われるのがイヤ！」と言いますが、それでもめげずに洗濯も毎日ではなく、まとめ洗いを実行（主婦は毎日が常識）。灯油ストーブも湯沸かしや煮物に使うといいます。また古い着物を服や鞆にリサイクルするサークルでも活躍しています。

ガールスカウトのリーダーとして31年、推進員としても13年、二人はまさに人と自然のために「継続は力なり！」を実行していました。



なるほど サ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 25

*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

蓄電池

蓄電池は「電気エネルギーを化学エネルギーに変換して貯蔵する装置」のことです。鉛蓄電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池などがあります。なんてことはない、そう、皆さんが普段から使っている電池のことです。

近年、蓄電池の開発と商品化が世界中で加速しています。自然エネルギー発電で余った電力を蓄電池に溜めておいて、発電していない時間帯、季節でも使えるようにしようとする動きが活発化しています。家庭レベルのものから、大きな発電所用まで様々なサイズの蓄電池が次々と商品化されています。自家発電だけでやり繰りするオフグリッドハウスなどでは必須アイテムです。世界的に進んでいる自動車のEV（電気）化も蓄電池の技術開発に拍車をかけています。中には、電気自動車の駐車中に自然エネルギーで発電した電力

を溜めておき、余った電気を例えば家庭電力としても使おうという野心的なアイデアも実際に挑戦されています。日本では、災害の時の非常用電源としても期待されています。

蓄電池を活用すれば、不安定と言われる自然エネルギー発電が安定化できる、そうやって化石燃料や原子力発電を減らしていこう、という期待がある一方で、将来には使用済み蓄電池の廃棄の問題が出てくるのではないかと不安の声、アンチの声もあります。夢の技術と期待される燃料電池、水素電池も、実は蓄電池の一種です。充電しないと使えません。その電気エネルギーをどうするか？ 世界的には自然エネルギー発電がトレンドですが、昨年に日本政府から出された「石炭火力発電で」というアイデアは海外からは批判されてしまいました。新技術ができたから大丈夫、とはなかなかならないものです。だからこそ、地道な節電なども必要になってくるのです。

イベント情報

◆推進員事業説明会

2018年6月30日(土) 15:00~16:00

場所：和歌山市NPOボランティアサロン
B会議室

フォルテワジマ6階

〒640-8033 和歌山市本町2丁目1

※他、県内各地で同説明会を開催予定

◆共育支援メニューフェア

2018年7月24日(火) 14:00~16:00

場所：和歌山県立体育館

JR和歌山駅から徒歩10分

〒640-8392 和歌山市中之島2238

出展：サステナブル・フォーラムわかやま
和歌山県地球温暖化防止活動推進センター

◆紀の川市民まつり

2018年8月19日(日) 16:30~21:00

場所：紀の川市打田若もの広場

JR打田駅から徒歩15分

〒649-6422 紀の川市花野135

出展：紀の川市地球温暖化対策協議会
和歌山県地球温暖化防止活動推進センター

◆夏休みこどもまつり

2018年8月26日(日) 10:00~15:00

場所：橋本市きしかみこども館

JR紀伊山田駅から徒歩3分

〒648-0085 橋本市岸上203

出展：伊都・橋本地球温暖化対策協議会
内容「環境リサイクル教室」

あなたの活動をサポート わかやま推進員サイト イベント情報も随時更新

県センター通信

梅雨。毎年「今年の梅雨はしっかり雨が降ってくれるかな、でも一気に降り過ぎて洪水にならないでね」と願いながらこの季節を迎えます。梅雨が終われば夏本番。各地で開催されるイベントにお出かけするのも楽しみです。和歌山は川、山、海と、満喫できる自然がたくさんあって贅沢ですね。この自然を次世代へ、その次の世代へと残していきたいと強く思う今日この頃です。

今年度のセンターでは、COOL CHOICE（クール・チョイス＝賢い選択）を合言葉に、今までずっと活動を続けてこられた人も、最近ちょっと縁遠かったなーという人も、個人的に実はとても頑張っていて節約している人も、改めてこの合言葉に賛同していただけるよう様々な取り組みを企画中です。そして賛同者を県内にどんどんと広めていきたいと思っています。目指せCOOL CHOICE宣言率全国一！！

2018 夏号 vol.29



発行／和歌山県環境生活総務課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL: 073-441-2674 FAX: 073-433-3590
mail: e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問い合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL: 073-499-4734 FAX: 073-499-4735
mail: wenet@vaw.ne.jp



この情報誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています。